

生か、繋いで

- 被爆三世の家族写真 -

撮影・展示プロジェクト

作成 2023年1月11日



2016年撮影 広島のご家族（撮影場所／広島市中区 平和記念公園）



どううね ひろこ
堂畝 紘子

広島市出身
美学校岡山校 銀塩写真講座上級 修了
「こはる写真館」代表

2000年 太平洋戦争の国内戦跡の記録撮影を開始
2013年 独立 「こはる写真館」開業
2015年 「被爆三世の家族写真」撮影を開始
2018年 「被爆三世」(単写真) 2018 視点 入選
2018年 西日本豪雨災害で被災
2019年 「椰子と生きる」(組写真) 2020 視点 奨励賞

私が「被爆三世の家族写真」の撮影を始めたのは、2015年1月の事です。
被爆地 広島に生まれ、平和教育を受けて育つ中で、自分も何かしなければという思いを子供の頃から抱いていましたが、具体的に何をすれば良いのか、何が出来ることがわからないまま、時間だけが過ぎていきました。

「被爆三世」を被写体にと提案してくれたのは、高校時代の友人です。
彼女は、おじいちゃんが被爆者であることを海外留学中に何気なく話したところ、周囲の態度が一変したことにショックを受けたそうです。被爆したおじいちゃんは既に他界していましたが、自分やその家族を撮ることで何か見えてくるかもしれないよと、名乗り出てくれました。

これまでに撮影させていただいたご家族は、広島と長崎、両市を合わせて約80組。
迷いながら始めた活動ですが、あるご家族の集合写真を撮影した時から、1枚の家族写真で命の繋がりを可視化する意義と重みを感じるようになりました。
子や孫に囲まれてやわらかい笑顔を向けてくれている被爆者のおばあちゃん。この方が生きていなければ、写真に写っている全員が今ここに存在しない人たちなのだと気付いた時、改めて、戦争で消えた命とともにうしなっただけの大きさを痛感しました。

同時に、1つの命が生きただけで、これだけの人が生まれ続いていく、尊さの象徴でもありました。
戦争・原爆を体験し、生き残った被爆者のおじいちゃん・おばあちゃんが、被爆二世のお父さん・お母さんを生み、被爆三世へ繋がった命が、更に四世へと続いている事実は、当たり前のもでは無いと感じています。

また、撮影を進める中で、被爆者の孫である私たちは、その実体験を直接聞くことができる最後の世代なのだと気付きました。そして、その記憶を次の世代へ繋いでいくことは、今の私たちにしか出来ないことだと思います。
被写体として参加していただいたご家族には、その場で被爆体験や戦争・原爆・平和について語り合う時間を作っていました。
家族写真に添えたキャプション文は、被写体である被爆三世の方が、ご家族から伝え聞いた被爆体験を、ご自身の言葉でまとめたものです。

戦争も戦後も知らない私たちが、家族の体験にどう向き合うべきか——被爆体験・戦争体験を若い世代にどう継承していくかが問われる中、被爆三世の男性の
「今、幸せに生きている僕たちが笑顔で家族写真に写るのは自然なことで、何より祖父母への感謝の気持ちの表れです。
生きてくれてありがとうって思うことから考えていく“平和”があっても、僕は良いと思うんですね。」
という声が印象に残っています。
考える為には知らなければなりません、知る為には何かきっかけが必要かもしれません。
被爆体験を聞くことは決して簡単ではありませんが、被爆三世が家族を通して何を感じ、考え、今を生きているのか、出来る限り 寄り添いながら、ありのままの姿を写真に記録させていただいています。

広島・長崎に限らず、70代以上のおじいちゃん・おばあちゃんは、戦争・戦後生き抜かれた体験者です。
被爆三世の人も、そうでない人も、ご自身の視点でご覧いただけましたら幸いです。

(過去の写真展開催時の「作品によせて」より引用)

◇2015年1月より撮影を開始し、今年で9年目を迎えました。

これまでに広島・長崎あわせて92組のご家族を撮影しています（2023年1月1日現在）

◇撮影内容

①家族写真

ご家族全員での集合写真です。

撮影後はご自宅で記念に飾っていただけるよう
普段通りのご家族の肖像を撮影しています。

撮影場所は、ご家族にとって意味のある場所。
(寝たきりで動けない方がいる場合は、病院や
ご自宅のベッドの上で撮影することもあります)

表情は、ご家族の皆さんにお任せしています。
無理に笑っていただくことはありませんが、
孫やひ孫と記念写真を撮る際にこわい顔をされる
おじいちゃん・おばあちゃんは少ないです。

被爆者のご家族が既に他界されている場合は、
ご遺影や思い出の品などを持って撮影に臨まれて
います。



①ご家族内での対話風景

撮影時、ご家族で対話をする時間を設けています。

被爆者のご家族がいる場合、この
時に初めて家族の被爆体験を聞く
お孫さんもいらっしゃり、様々な
反応をされている様子を、少し離
れた場所から撮影しています。
それまで「他人事」のようだった
原爆の話が、身内の話を聞くこと
で「我が事」に切り替わった瞬間
を目の当たりにする機会も多々あ
りました。

被爆体験を聞くことが難しい場合
は家族の思い出話や、既に他界さ
れた被爆者の方がなにも語らず亡くなっていた場合は、「どうして話さなかったのかな」とみなさんで考えながらお話する時間にしていただいています。





2017年撮影 長崎のご家族（撮影場所／長崎市 浦上天主堂）

◇写真展は特別な理由がない限り、

「生きて、繋いで - 被爆三世の家族写真 -」という名称で開催しています。

◇開催地域

全国

※被爆者高齢化の状況を鑑みて、残された時間にできることを尽くしたいという思いから、2023年は広島市・長崎市及びその近郊地域に重点を置き、積極的な展示活動を行っていく予定です。

◇目的

・「いのちの繋がり」を感じていただき、戦争・原爆・平和・いのちについて、それぞれの視点で考えてもらうためのきっかけ作り

・被爆体験の継承

(※被爆体験の継承ができない家族が多数いる現実も含めて、知ってもらう)

◇紹介文(例)

広島・長崎への原爆投下から78年を迎える。

被爆者の祖父母から実体験を直接聞ける最後の世代である私たちは、家族の体験をどう受け止め、次の世代になにを伝えていけば良いのだろうか。

「おじいちゃん・おばあちゃんの被爆体験を聞かせて。」

孫の声に応える被爆者も、そうでない被爆者も、いのちを繋いで生きてきた。

祖父母の経験した戦争・原爆とはなんだったのだろう。

平和とは、継承とは――？

被爆体験に向き合う家族と、いのちの繋がりを視覚化する写真作品展。

(過去の写真展告知チラシより引用)



<写真資料> 過去の写真展会場風景(左/立命館大学国際平和ミュージアム・右/エディオン蔦屋家電広島駅前店)

<写真展「生きて、繋いで - 被爆三世の家族写真 -」開催実績>

☆…当プロジェクト主催

開催年月日（会期）	開催イベント名	会場	開催地
2015年8月2～6日	1945-2015 被爆三世 - 肖像と家族写真 -	yo-haku	広島県広島市
2016年7月10日	ヒロシマレクイエム	旧日本銀行広島支店（被爆建物）	広島県広島市
☆ 2016年7月30日～8月5日	71 被爆三世 - これからの私たちは -	KAWAI PLACE	広島県広島市
2016年9月18日	被爆三世 - 孫たちの家族写真 -	比治山女子中学高等学校	広島県広島市
☆ 2017年7月30日～8月5日	生きて、繋いで - 被爆三世 これからの私たちは - in 広島	西区民文化センター	広島県広島市
☆ 2017年8月8日～9月3日	生きて、繋いで - 被爆三世 これからの私たちは - in 長崎	ナガサキピースミュージアム	長崎県長崎市
2018年3月7～18日	ピースマルシェ（※出展）	長崎市立図書館	長崎県長崎市
☆ 2018年5月3～31日	生きて、繋いで - 被爆三世の家族写真 -	共同通信社本社 ギャラリーウオーク	東京都港区
☆ 2018年6月19日～7月16日	生きて、繋いで 2018- 被爆三世 これからの私たちは -	ナガサキピースミュージアム	長崎県長崎市
☆ 2018年7月31日～8月5日	生きて、繋いで 2018- 被爆三世 これからの私たちは -	西区民文化センター	広島県広島市
2018年8月6日	ピースフォーラム 平和のひろば（※出展）	広島別院	広島県広島市
2018年8月25～30日	生きて、繋いで - 被爆三世の家族写真 -（※出展）	千歳栄光教会	北海道千歳市
2018年9月16日	生きて、繋いで - 被爆三世の家族写真 -	比治山女子中学高等学校	広島県広島市
2018年9月23～28日	生きて、繋いで - 被爆三世の家族写真 -（※出展）	エディオン 葛屋家電校	広島県広島市
2018年10月13～31日	生きて、繋いで - 被爆三世の家族写真 -（※出展）	みらい館大明ブックカフェ	東京都豊島区
2018年11月3日	平和のつどい（※出展）	真宗学寮	広島県広島市
2018年11月8日	梅原司平さん 西日本豪雨災害お見舞いコンサート（※出展）	ホテルチューリッヒ東方 2001	広島県広島市
2018年11月17日	第6回核兵器廃絶 - 地球市民集会ナガサキ 被爆継承サロン（※出展）	長崎原爆資料館	長崎県長崎市
2019年1月27日	ICAN 国際運営委員 川崎哲さん講演会 核兵器はなくせる？	中野区産業振興センター	東京都中野区
☆ 2019年2月1～8日	生きて、繋いで - 被爆三世の家族写真 -	ハチドリ舎	広島県広島市
2019年2月25日	広島県宗教連盟会議（※出展）	グランドプリンスホテル広島	広島県広島市
☆ 2019年5月1～27日	生きて、繋いで - 被爆三世の家族写真 -	立命館大学 国際平和ミュージアム	京都府京都市
2019年7月1～2日	生きて、繋いで - 被爆三世の家族写真 -（※出展）	立正佼成会 広島教会	広島県広島市
☆ 2019年7月12～16日	生きて、繋いで - 被爆三世の家族写真 -	コクラヤギャラリー	長崎県長崎市
2019年7月27～28日	やろまいか みんなの平和祭実行委員会	安城市市民会館	愛知県安城市
2019年8月6～12日	被爆三世の家族写真 - 孫だから聞けることもある -（※出展）	エディオン 葛屋家電	広島県広島市
☆ 2019年9月20～24日	生きて、繋いで - 被爆三世の家族写真 -	合人社ウエンディひと・まちプラザ	広島県広島市
2019年11月1～3日	平和のつどい（※出展）	真宗学寮（被爆建物）	広島県広島市
2020年8月7～9日	第36回平和を考える戦争展（※出展）	すばるホール	大阪府富田林市
2020年8月8～10日	生きて、繋いで - 被爆三世の家族写真 -（※出展）	伊丹市立図書館 ことば蔵	兵庫県伊丹市
2020年8月8～10日	生きて、繋いで - 被爆三世の家族写真 -（※出展）	伊丹市立中央公民館	兵庫県伊丹市
☆ 2020年7月4日～9月7日	生きて、繋いで - 被爆三世の家族写真 -	共同通信社本社 ギャラリーウオーク	東京都港区
2021年5月1日	牛田早稲田神社 あおぞらふれあい市 Mini（※出展）	牛田早稲田神社	広島県広島市
2021年7月10日～8月31日	生きて、繋いで - 被爆三世の家族写真 -（※出展）	大刀洗平和記念館	福岡県朝倉郡筑前町
2021年7月31日～9月5日	35回 HEIWATEN 堂詠子写真展（※）	三良坂平和美術館	広島県三次市
☆ 2021年10月23日～24日	生きて、繋いで - 被爆三世の家族写真 -	RAKU GALLERY	長崎県長崎市
2021年10月27日～11月14日	忘れないプロジェクト写真展（※出展）	ナガサキピースミュージアム	長崎県長崎市
☆ 2022年7月27～30日	生きて、つないで 2022	広島市南区民文化センター	広島県広島市
2022年9月18日	Colorful Heart Festival（※出展）	広島市 平和大通り	広島県広島市
☆ 2022年11月3～16日	生きて、繋いで - 被爆三世の家族写真 -	国立 長崎原爆死没者追悼平和祈念館	長崎県長崎市

<今後の展示予定> ※調整中の予定は未記載

開催年月日（会期）	開催イベント名	会場	開催地
☆ 2023年4月28～30日	生きて、繋いで - 被爆三世の家族写真 -	広島市安芸区民文化センター	広島県広島市
2023年5月21日	タイトル未定（※リサイクル内映像作品…作品参加）	広島市南区民文化センター	広島県広島市
☆ 2023年8月15～19日	生きて、つないで 2023 HIROSHIMA	アステールプラザ 市民ギャラリー	広島県広島市
2023年8月29日	タイトル未定（※ゲスト出展）	広島国際会議場	広島県広島市
☆ 2023年11月22～27日	生きて、繋いで - 被爆三世の家族写真 -	くらはら 市民ギャラリー	広島県東広島市

◇「生きて、繋いで - 被爆三世の家族写真 -」撮影・展示プロジェクトでは、被写体として撮影にご参加いただけるご家族を常時募集しています。

被爆者の方が「生きた証」と「いのちの繋がり」を家族写真という形で記録させていただきたいと思っております。

また、被爆した方がすでに他界されているご家族も、ご参加いただけます。

<参加条件>

- ・被爆三世の方が1人以上いるご家族（血縁の有無は問いません）
※被爆三世の方、おひとりでの参加も可能です

<募集方法>

- ・インターネット（ホームページ）
- ・被写体募集パネル（写真展会場）
- ・チラシ
- ・新聞、テレビ番組など

<応募方法>

- ・インターネット上からの申し込み
- ・写真展会場での申し出



被爆三世の家族を募集

台紙入り記念写真 無料進呈

写真で感じる いのちの継承







募集要項

対象	<p>「被爆三世のいる家族」または「被爆三世の人」</p> <p><small>※被爆三世（祖母のどちらか、もしくは両方が被爆者・被爆経験者）が1人以上いるご家族・ご親族。同居・別居は問いません。被爆三世の方、1人のみでもご参加いただけます。</small></p>
目的	<p>写真作品制作のため</p> <p><small>撮影させていただいた写真は、登録された作品として写真展にて発表します。（全国各地で開催予定）その他、写真集収録、WEBページでの公開等を行う場合もあります。</small></p>
条件・お約束	<p><input checked="" type="checkbox"/> 費用は一切いただきません。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 年齢・性別・国籍を問いません。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 宗教・政治・宗教活動への利用を目的としない方針。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 撮影画像及び被爆状況・被爆体験に関する情報の取扱いに関して一任いただけること。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 個人情報の取扱いには最重なる管理を行い住所・名前等の非公開事項を無断で公表・開示することはありません。</p>
謝礼	<p>台紙入り記念写真 <small>※画像・プリントサイズは選べません。</small></p> <p><small>※お近くの写真展会場でお渡しです。特別な事情がない場合は、郵送できません。（生活費を削って活動しています。何卒ご理解の程、よろしくお申し上げます。）</small></p>

お申込みから撮影までの流れ

①お申込み・・・プロジェクトWEBサイト内の撮影お申込みフォームよりお申し込みください。ご参加可能なご家族の意思を確認してからお申し込みください。

②撮影相談・・・折り返し、メールでご連絡いたします。撮影日・撮影場所など、ご相談の上、決めていきます。

③撮影当日・・・いつも通りの服装で構いません。ご家族の集合写真・別居無難などを撮影させていただきます。嫌なことは決して無理強いはしませんので、安心してご参加ください。

私たちは、被爆者から被爆二世、三世までの命の繋がりを家族写真で表現し、同世代・次世代のこれからを考えてもらうきっかけ作りのために活動しています。ぜひこの機会に、生きた証を「家族写真」という形で記録してみませんか。

生きて、繋いで

- 被爆三世の家族写真 -

撮影・展示プロジェクト

お申込みはホームページから

<http://hibaku3sei.tiyogami.com>

※パソコン・スマートフォンどちらからお申込みいただけます。



◇「生きて、繋いで - 被爆三世の家族写真 -」撮影・展示プロジェクトは写真家 堂畝紘子による個人プロジェクト（非営利）です。

撮影活動のサポート及び写真展の企画・運営・開催は平和を考えていくためにきっかけ作りの活動を行う市民団体（堂畝紘子 主宰）「被爆三世・四世プロジェクト これからの私たちは」が主に行っています。

その他、ご依頼を受けて平和資料館や美術館などの文化施設教育施設・商業施設・企業や自治体、他団体主催のイベントなどに出展協力をさせていただく機会も多数いただいております。

◇「被爆三世・四世プロジェクト これからの私たちは」とは
※旧称「被爆三世これからの私たちは project」（2023年1月改称）

被爆三世～四世の世代（被爆三世・四世に限らない）を中心に集まった有志による非営利の平和市民活動です。被爆者の実体験を直接聞くことができる最後の世代として、その記憶をどう受け継ぎ、次の世代に伝えていくか、自分たちに出来ることがなにかを考えるためのきっかけ作りを目指しています。

2016年の立ち上げ以降、広島・長崎を中心に、全国各地で展示イベントを企画・運営しています。

写真家・グラフィックデザイナー・書道家・音楽家など、様々なアーティストの表現を通しての展示活動・参加型の企画を中心としていますが、事務や雑務などをサポートする運営メンバーも在籍。

学業や仕事、育児等で忙しい世代が中心のため、「できる人が、できる時に、できることを」という気軽なスタイルで敷居の低い平和活動を行っているため、NPO法人化は考えておりません。

平和を考えること、願うことは、誰が、いつ、どのように行ってもいいのだと、来場者と同じ立ち位置から、フラットな目線で提案し続けます。



<写真資料> 2022年7月開催「生きて、つないで 2022」於 広島市南区民文化センター ギャラリー